

第五次伊東市総合計画

第十一 次 基 本 計 画
令和 6 年 度 実 績 報 告 書

1 第五次伊東市総合計画策定の目的

本市を取り巻く環境は、近年の全国的な傾向と同様に、人口減少及び少子・高齢化の進行並びに大規模化する自然災害の発生が危惧されるとともに、情報化社会の進展が進むなど大きく変化しており、これらの変化に的確かつ迅速に対応していく持続可能で柔軟な市政運営が求められております。

また、伊東市が有する美しい自然や郷土の歴史文化等を守りつつ、これらかけがえのない本市ならではの財産を生かし、市民と行政が知恵を出し合いながら新たなまちづくりを進めることにより、成長していくことが求められております。

このような中、時代の変化を予測するとともに、高度化かつ多様化する市民の価値観やニーズに適応した魅力的で住みよい伊東市の創造を目指し、市民、事業者及び行政が連携しつつ、計画的かつ戦略的にまちづくりを展開していくことを目的としております。

2 計画の役割

(1) まちづくりの指針

全てのまちづくり活動の根拠となるものであり、市民・事業者など様々な主体との共通の活動指針としての役割を果たします。

また、国・県などが本市に係る計画策定や事業を実施する際に、最大限尊重されるべき指針としての役割を果たします。

(2) 最上位計画としての指針

市の最上位計画として、福祉、環境、観光、教育等の分野における個別計画を策定する際の指針としての役割を果たします。

(3) 行政経営の指針

市財政の長期的展望を踏まえながら、行政の運営を管理ではなく経営と考え、成果と評価に重点を置いた行政経営を進めていくための指針としての役割を果たします。

3 計画の構成及び期間

(1) 基本構想

伊東市におけるまちづくりの基本理念及び将来像を定めたものです。

全体の計画期間は、10 年間とします。

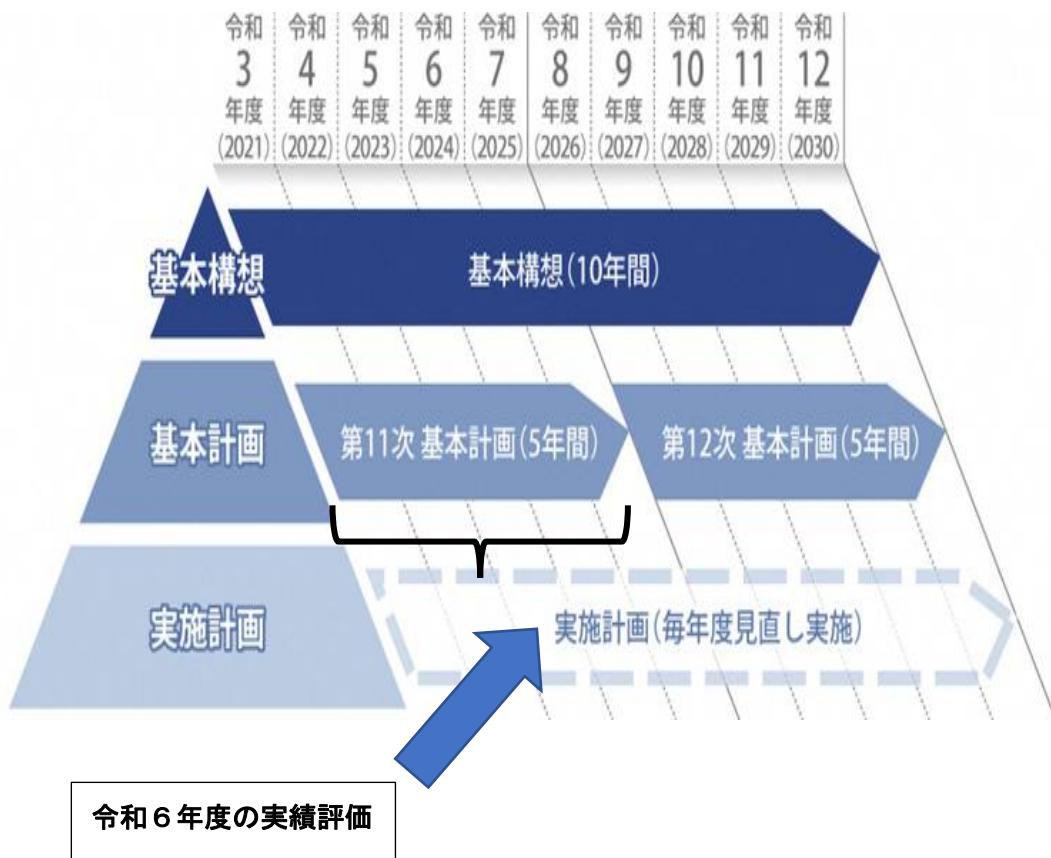
(2) 基本計画

基本構想を実現するための行政活動の基本となる政策・施策を体系的に示すとともに、施策の方向性を定めたものです。

計画期間は、前期・後期の各 5 年間とし、必要に応じて内容の見直しを行います。

(3) 実施計画

実施計画は、基本計画を定めた施策を実現するための具体的な手段として、事業計画を策定するものです。財政状況の変化等を勘案して毎年度見直しを行います。



4 第十一次基本計画の実績評価について

第十一次基本計画は、第五次伊東市総合計画基本構想における基本計画として策定しております。

計画期間は、令和3年度から令和7年度までとなっており、まちづくりの基本方向を示す政策目標と、それを具体化するための施策を体系的に示すとともに、施策が目指す姿や課題、取組方針などをまとめたものです。

この度、取組の4年目となる令和6年度が終了したことから、第十一次基本計画に記載された政策目標ごとの重要業績評価指標（KPI）の評価及び検証を行います。

これらの指標の評価・検証（Check）をもとに、令和7年度以降の事業執行及び第十二次基本計画（令和8年度から令和12年度における重要業績評価指標に反映（Action）します。

目次（施策分野別）

施策分野	担当課	ページ番号
政策目標1 「安全で安心して暮らせるまち」		
1-1 危機管理体制の充実	危機対策課	5
1-2 総合治水対策の強化	建設課	5
1-3 災害に強い建築物や公共施設の整備	危機対策課 建設課 建築住宅課	6
1-4 生活安全の推進	危機対策課	7
1-5 消防体制の強化 (消防団体制の強化・消防水利の充実)	危機対策課	8
政策目標2 「誰もが健やかに暮らし活躍できるまち」		
2-1 地域医療の充実	健康推進課	10
2-2 健康づくり支援	健康推進課	10
2-3 出産・子育て支援の充実	子育て支援課	11
2-4 保育及び幼児教育の充実	幼児教育課	12
2-5 高齢者福祉の充実	高齢者福祉課 健康推進課	13
2-6 障がい者福祉の充実	社会福祉課	14
2-7 地域福祉の推進	社会福祉課	15
2-8 多様性のある社会の実現	市民課	15
2-9 保険・年金制度の運営	保険年金課	16
政策目標3 「良好な環境が広がり快適に暮らせるまち」		
3-1 自然との共生社会の推進	環境課 産業課	18
3-2 循環型社会の推進	環境課	19
3-3 生活排水対策の充実	下水道課	19
3-4 安全でおいしい水の安定供給	水道課	20
3-5 魅力的な都市空間の創造	都市計画課	20
3-6 公共交通体系の充実	都市計画課	21
3-7 道路環境の整備	建設課	21
政策目標4 「心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち」		
4-1 教育環境の整備	教育総務課	23
4-2 未来を創る教育の充実（小・中学校）	教育指導課	24
4-3 生涯学習活動の推進	生涯学習課	25
4-4 青少年の健全な育成	生涯学習課	25
4-5 市民スポーツ活動の推進	生涯学習課	26
4-6 歴史・芸術文化の振興	生涯学習課	26
4-7 郷土愛の醸成	企画課	27
政策目標5 「活力にあふれ交流でにぎわうまち」		
5-1 地域資源の魅力向上	観光課	29
5-2 新たな観光形態の構築・推進	観光課	30
5-3 広域連携による誘客の拡充	観光課	31
5-4 商工業の振興	産業課	32
5-5 農林業の振興	産業課	32
5-6 水産業の振興	産業課	33
5-7 移住定住の促進・関係人口の拡大	企画課	33
5-8 国際交流の推進・都市交流の促進	秘書広報課	34
構想の推進「総合計画を推進するための土台づくり」		
6-1 全員参加によるまちづくりの推進	秘書広報課	36
6-2 市民の信頼に応える行政運営	職員課	37
6-3 健全かつ持続可能な財政運営	財政課	37

第十一次基本計画 実施計画（目的指向体系表）

政策目標 1 安全で安心して暮らせるまち

施策 1－1 危機管理体制の充実

施策 1－2 総合治水対策の強化

施策 1－3 災害に強い建築物や公共施設の整備

施策 1－4 生活安全の推進

施策 1－5 消防体制の強化

担当課	危機対策課・水道課・下水道課・社会福祉課・健康推進課	施策1-1の全指標達成率					
政策目標	1 安全で安心して暮らせるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	1 危機管理体制の充実	指標数	22	22	22	22	22
目指す姿	市民、観光客等が、自然災害等により死傷しない	達成数	14	14	15	17	0
		達成率	63.6%	63.6%	68.2%	77.3%	0.0%

1 成果指標 (KPI)			指標数	1	1	1	1	1		
			達成数	1	1	1	1	0		
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%		
成果指標	発災時的人的被害者数	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		R1 6人	目標値	0	0	0	0	0	人	危機対策課
			実績値	0	0	0	0	0		
目標値の考え方		評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	○ 達成	○ 達成			
		大規模自然災害時における人命の保護を最優先とした、事前防災対策を推進していくため発災時的人的被害者数を0人に設定した。								
		R6 年度	(実績評価) ・6月18日及び8月30日から9月1日に大雨のため避難所を開設し、合計64名の避難者を受け入れたが、死傷者を出すような大規模な自然災害の発生はなかった。 (次年度修正点) ・修正はなし。引き続き人命の保護を最優先とした事前防災対策の推進に努めていく。							

担当課	建設課・危機対策課・産業課	施策1-2の全指標達成率							
政策目標	1 安全で安心して暮らせるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
施策分野	2 総合治水対策の強化	指標数	15	15	15	15	15		
目標値の考え方	市域で水害や土砂災害が発生しない	達成数	12	13	13	13	0		
		達成率	80.0%	86.7%	86.7%	86.7%	0.0%		
1 成果指標 (KPI)			指標数	2	2	2	2		
			達成数	1	1	1	0		
			達成率	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%		
成果指標 1	河川が溢れる件数	基準値	R3	R4	R5	R6	R7		
		R1 0件	目標値	0	0	0	0		
			実績値	0	0	0	0		
目標値の考え方		評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	○ 達成			
		雨天時における河川の流下能力・危険箇所の把握、時間雨量50mmに対応できる河川及び水路の計画的な整備、河川等の補修に関する市民要望を迅速かつ的確に対応して被害を無くす。							
		R6 年度	(実績評価) ・危険箇所の修繕や溢水箇所の改修を適宜行うとともに、気象情報を注視しパトロールを実施したことにより、河川及び水路の溢水による被害を防止した。 (次年度修正点) ・定期パトロールを強化し、危険箇所の把握を行い、日常的な維持管理に努める。						
成果指標 2	急傾斜地崩壊危険区域指定の総指定箇所数	基準値	R3	R4	R5	R6	R7		
		R1 34箇所	目標値	35	36	37	38		
			実績値	34	34	34	34		
目標値の考え方		評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成			
		急傾斜地崩壊危険区域指定の促進、事業における地域住民との調整を行い県へ要望する箇所数を1箇所以上とする。							
		R6 年度	(実績評価) ・要望箇所（吉田）において、静岡県急傾斜地崩壊対策事業費補助金（指定促進）の要求を行った。 (次年度修正点) ・地元調整を適宜行い、受益者の理解を得て、区域指定を促進する。						

担当課	危機対策課・水道課・下水道課・建設課・建築住宅課・産業課	施策1-3の全指標達成率						
政策目標	1 安全で安心して暮らせるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
施策分野	3 災害に強い建築物や公共施設の整備	指標数	14	14	14	14	14	
目指す姿	建築物の耐震性等の安全性が確保されている	達成数	6	7	9	7	0	
		達成率	42.9%	50.0%	64.3%	50.0%	0.0%	
1 成果指標（KPI）				指標数	3	3	3	3
				達成数	2	2	2	0
				達成率	66.7%	66.7%	66.7%	0.0%
成果指標 1	市有建築物の耐震化率	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位
		R1 95.3%	目標値 100	100	100	100	100	%
目標値 の 考え方	「伊東市が所有する公共建築物の耐震化計画」に基づき、計画的な耐震化を進め、地震災害時における建物の倒壊等による人的被害を防ぐため、市有建築物の耐震化率を100%に設定した。	実績値 95.2	95.2	95.1	95.8			危機対策課
		評価 X 未達成	X 未達成	X 未達成	X 未達成			
成果指標 2	港湾施設の整備要望の実施箇所数（累計）	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位
		R2 2か所	目標値 2	4	6	8	10	か所
目標値 の 考え方	白石防波堤延伸事業を含めた伊東港における、港湾整備を港湾施設管理者（静岡県）に要望した実施箇所数を年間2箇所以上とする。	実績値 4	5	6	8			建設課
		評価 ○ 達成	○ 達成	○ 達成	○ 達成			
成果指標 3	民間住宅の耐震化率	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位
		R1 83%	目標値 83.5	84	84.5	85	86	%
目標値 の 考え方	平成25年から平成30年までの耐震化率を算出した結果、各年約0.5%の上昇が確認できたことから、引き続き年0.5%以上の耐震化率の向上を目標とし86%と目標値を設定した。	実績値 83.9	84.3	84.6	85.1			建築住宅課
		評価 ○ 達成	○ 達成	○ 達成	○ 達成			
R6 年度	1（実績評価）・下水道課の玖須美中継ポンプ場の耐震化工事完了及び北中学校旧校舎2棟（耐震性無し）解体完了により耐震化率が上昇した。 (次年度修正点)・引き続き、市有建築物の耐震化100%を目標として関係各課と連携、情報共有を行っていく。							
	2（実績評価）・令和6年度までに白石防波堤改良・防護柵補修、浮桟橋改修、第一防波堤改良、小浦防波堤・物揚場改良、川奈臨港道路・港湾施設改良を行った。 (次年度修正点)・引き続き、伊東港整備事業の推進について要望を継続していく。							
	3（実績評価）・昭和56年以前の木造住宅の補強工事に加えて、除却工事も増加している傾向にあり、目標値を上回ることができた。 (次年度修正点)・耐震補強の必要性や補助金の活用に対する啓発を継続し、戸別訪問を積極的に進めていくことで、民間住宅の耐震化率の向上を図る。							

担当課	危機対策課・市民課	施策1-4の全指標達成率						
政策目標	1 安全で安心して暮らせるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
施策分野	4 生活安全の推進	指標数	16	16	16	16	16	
目指す姿	市民等が交通事故や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる	達成数	8	11	10	10	0	
		達成率	50.0%	68.8%	62.5%	62.5%	0.0%	
1 成果指標（KPI）		指標数	2	2	2	2	2	
成果指標 1	市内における刑法犯認知件数（暦年） 324件	達成数	2	2	2	2	0	
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	
		基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位 担当課
目標値 の 考え方	市内における刑法犯認知件数（暦年） 324件	R1	目標値 310	300	290	280	270	件 危機対策課
		324件	実績値 245	293	257	241		以下
		評価	○達成	○達成	○達成	○達成		
成果指標 2	市内における人身交通事故発生件数（暦年） 367件	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位 担当課
		R1	目標値 330	310	290	275	260	件 危機対策課
		367件	実績値 270	267	239	225		以下
目標値 の 考え方	市内における人身交通事故発生件数（暦年） 367件	評価	○達成	○達成	○達成	○達成		
		1 (実績評価)	・目標を十分達成できており、犯罪被害防止の啓発活動等の地道な活動が実績につながっている。					R6 年 度
		(次年度修正点)	・目標の達成とともに前年比減を目指し、継続的に啓発活動に注力していく。					
R6 年 度	2 (実績評価)	・目標を十分達成できており、関係機関と連携した交通安全啓発活動が実績につながっている。						
		(次年度修正点)	・継続して目標達成となるよう、現状の交通安全啓発活動に注力していく。					

担当課		危機対策課		施策1-5の全指標達成率								
政策目標		1 安全で安心して暮らせるまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7			
施策分野		5 消防体制の強化（消防団体制の強化・消防水利の充実）		指標数	9	9	9	9	9			
目指す姿		市民が火災を始めとする災害から守られ安心して暮らすことができる		達成数	5	6	6	4	0			
				達成率	55.6%	66.7%	66.7%	44.4%	0.0%			
1 成果指標（KPI）				指標数	4	4	4	4	4			
				達成数	1	3	2	1	0			
				達成率	25.0%	75.0%	50.0%	25.0%	0.0%			
成果指標1	消防団員充足率<4月1日時点>			基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位		
				R2	目標値	100	100	100	100	%		
				99.2%	実績値	97.6	93.5	88.9	89.1	危機対策課		
目標値の考え方	災害等発生時に市民の生命・財産を守る消防活動を安全かつ円滑に実施するため、消防団員充足率を100%に設定した。			評価	×	未達成	×	未達成	×			
成果指標2	公務災害件数			基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位		
				R1	目標値	0	0	0	0	%		
				1件	実績値	3	0	3	3	危機対策課		
目標値の考え方	災害活動・消防団活動を安全に実施することを目標に、公務災害発生件数を0に設定した。			評価	×	未達成	○	達成	×			
成果指標3	夜警の実施率			基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位		
				R1	目標値	100	100	100	100	%		
				100%	実績値	66.1	100	100	100	危機対策課		
目標値の考え方	火災予防広報の実施及び火災発生時での迅速な対応を目標に、夜警実施率を100%に設定した。			評価	×	未達成	○	達成	○			
成果指標4	消防水利充足率			基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位		
				R1	目標値	76	77	78	84 (79)	%		
				75%	実績値	76	83	83	83	危機対策課		
目標値の考え方	消防水利不足解消を図るため、未整備地区に消防水利を整備することを目標に、消防水利充足率を80%以上とした。			評価	○	達成	○	達成	×	以上		
R6年度	1 (実績評価) ・消防団条例における定数506人に対し、451人の登録となった。											
	(次年度修正点) ・「分団定数に関するアンケート」の結果を踏まえ、消防団員数の適正化を図るため条例定数の改正及び消防団員を確保するための機能別消防団員制度を導入する。（伊東市消防団条例R7.4.1改正済）											
	2 (実績評価) ・自団訓練での安全確認不足による怪我1件に加え、火災活動時の怪我2件、計3件の公務災害が発生してしまった。											
	(次年度修正点) ・災害活動中の安全確認の徹底・幹部会議等で事故防止の啓発等を行い、公務災害の発生防止に努める。											
	3 (実績評価) ・予定していた日数の夜警を実施できた。（雨天等による中止を除く）											
	(次年度修正点) ・各分団の負担軽減を図りながら、適切な夜警活動の実施に努める。											
	4 (実績評価) ・消防水利未整備地区に2基の消火栓を新設したため、充足率が前年比0.3%増加したが、年間設置目標の5基を達成することはできなかったため、目標を上方修正した年間充足率1%の上昇には届かなかった。（整備地区597÷全地区718×100）											
	(次年度修正点) ・消防水利未整備地区への消火栓等の新設について、引き続き、伊東消防署・水道課と協議検討していく。											

第十一次基本計画 実施計画（目的指向体系表）

政策目標2 誰もが健やかに暮らし活躍できるまち

- 施策2-1 地域医療の充実
- 施策2-2 健康づくり支援
- 施策2-3 出産・子育て支援の充実
- 施策2-4 保育及び幼児教育の充実
- 施策2-5 高齢者福祉の充実
- 施策2-6 障がい者福祉の充実
- 施策2-7 地域福祉の充実
- 施策2-8 多様性のある社会の実現
- 施策2-9 保険・年金制度の運営

担当課	健康推進課	施策2-1の全指標達成率					
政策目標	2誰もが健やかに暮らし活躍できるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	1地域医療の充実	指標数	9	9	9	9	9
目指す姿	市民・観光客等が質の高い医療を受けることができる	達成数	8	7	8	7	0

1 成果指標 (KPI)			指標数	1	1	1	1	1	
			達成数	1	1	1	1	0	
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	
成果指標	地域医療支援病院の継続	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		R1	目標値	要件達成	要件達成	要件達成	要件達成	要件達成	健康推進課
		承認要件達成	実績値	要件達成	要件達成	要件達成	要件達成	要件達成	
目標値の考え方	地域医療支援病院の継続は、「紹介率80%以上」、「紹介率65%以上かつ逆紹介率40%以上」、「紹介率50%以上かつ逆紹介率70%以上」のいずれかを満たすことが承認要件の一つとされていることから、目標値は数値目標とはせず要件達成とした。	評価	○達成	○達成	○達成	○達成	○達成		
R6年度	(実績評価)・地域医療支援病院の承認要件について、「紹介率65%以上かつ逆紹介率40%以上」を達成することができた。 (次年度修正点)・今後も医療機関の機能分担について啓発を行い、市内・市外の医療機関との連携を密に行うことにより病診連携を進めていく。								

担当課	健康推進課	施策2-2の全指標達成率								
政策目標	2誰もが健やかに暮らし活躍できるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7			
施策分野	2健康づくり支援	指標数	20	20	20	20	20			
目指す姿	市民がライフステージに合った、健康的でいきいきとした生活を送ることができる	達成数	4	4	6	8	0			
		達成率	20.0%	20.0%	30.0%	40.0%	0.0%			
1 成果指標 (KPI)			指標数	2	2	2	2			
			達成数	0	0	0	0			
			達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
成果指標1	健康寿命（お達者度）	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		H28	目標値	男性18.08 女性20.84	男性18.22 女性20.93	男性18.37 女性21.01	男性18.51 女性21.10	男性18.65 女性21.19	年	健康推進課
		男性17.48年 女性20.30年	実績値	—	—	—	—	—	以上	
成果指標1	お達者年齢	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		目標値	—	—	—	—	—	年	健康推進課	
		※1	実績値	男性79.0 女性84.2	男性78.8 女性84.2	男性78.9 女性83.6	R8.9公表		以上	
評価	—	—	—	—	—	—	—			
目標値の考え方	長く健康で自立した生活を送るため、静岡県の過去公表資料を基に推計した将来予測値を設定。今後、令和3年度以降の実績を基に、令和8年度以降の推計をしていく。									
成果指標2	健康意識（いとう健康マイレージ参加者数）	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		R1	目標値	17,600	17,600	17,600	17,600	17,600	人	健康推進課
		17,550人	実績値	16,032	16,701	17,014	17,377		以上	
評価	×未達成	×未達成	×未達成	×未達成	×未達成	×未達成				
目標値の考え方	健康づくりに取り組むきっかけとし、各種健康診断やがん検診等の受診促進と、健康教室や介護予防活動などへの参加を通じ運動習慣を持つ人の増加につなげることで、伊東市民の健康意識の向上と健康寿命の延伸を図る。									
R6年度	(実績評価)・運動教室や健康相談などの参加者及び健診受診者もWEB予約などにより増加し、昨年度よりも300人以上増えたが、目標は未達成となった。 (次年度修正点)・健康マイレージ対象事業である検（健）診や健康講座、民間業者等の周知を図り、健康づくりに取り組む市民を増やす。									
※1 お達者度は令和5年度に公表された令和2年度実績をもって廃止となり、令和6年9月9日に公表された令和3年度実績からは、算出方法が異なる お達者年齢にて管理していくこととなったため、成果指標を変更する。令和3年度以降の実績を集計し、令和8年度以降の目標値を推計していく。										

担当課		子育て支援課		施策2-3の全指標達成率							
政策目標	2	誰もが健やかに暮らし活躍できるまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7		
施策分野	3	出産・子育て支援の充実		指標数	16	16	16	16	16		
目指す姿	子育て世代が安心して出産ができ、心身共に健やかに子育てができる		達成数	7	9	12	11	0			
	子どもが心身ともに健やかに成長できる		達成率	43.8%	56.3%	75.0%	68.8%	0.0%			
1 成果指標（KPI）				指標数	2	2	2	2	2		
				達成数	1	1	1	1	0		
				達成率	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%		
成果指標1	子育てを楽しいと思う親の割合（乳幼児健康診査アンケート）		基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	
			R1	目標値	91.0	92.0	93.0	94.0	95.0	%	
目標値の考え方	90.5%		実績値	93.9	94.2	94.3	94.2			子育て支援課	
			評価	○達成	○達成	○達成	○達成			以上	
成果指標2	「出産・子育て支援の充実」に満足している市民の割合（市民満足度調査）		基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	
			R2	目標値	63.5	65.0	66.5	68.0	70.0	%	
目標値の考え方	62.0%		実績値	55.1	53.0	57.1	58.5			子育て支援課	
			評価	×未達成	×未達成	×未達成	×未達成			以上	
年 度	1（実績評価）・伴走型相談支援体制の充実の成果もあり、乳幼児期の子育てを楽しいと思う親の割合が増え、目標値を達成することができた。 (次年度修正点)・引き続き、妊娠期からの切れ目のない支援体制の充実に努めていく。										
	2（実績評価）・目標値を達成できなかったが、出産・子育て支援に関する各種事業の開催や各種媒体による情報発信により、市民満足度は年々向上してきている。 (次年度修正点)・引き続き、出産・子育て支援に関する各種事業を円滑に実施し、各種媒体による市民への発信力を高め、出産・子育て支援の充実を図り、市民満足度を高めていきたい。										

担当課	幼稚教育課	施策2-4の全指標達成率						担当課 幼稚教育課
政策目標	2 誰もが健やかに暮らし活躍できるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
施策分野	4 保育及び幼児教育の充実	指標数	14	14	14	14	14	
目指す姿	子どもたちが健やかに成長することができる	達成数	9	8	9	10	0	
	子育て世代が子育てと仕事が両立できる	達成率	64.3%	57.1%	64.3%	71.4%	0.0%	
1 成果指標 (KPI)		指標数	3	3	3	3	3	
		達成数	1	0	1	1	0	
		達成率	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	
成果指標 1	待機児童数<4月1日時点>	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位
		R2 5人	目標値 2	0	0	0	0	人
		実績値 1	1	1	0	0	0	以下
目標値 の 考え方	待機児童数は、令和元年度11人、令和2年度5人と減少傾向にあること、また、保育所入所申込数が、令和2年度から令和3年度にかけて減少傾向にあり、少子化の進行も見据えて、令和4年度に目標達成を見込んだ。							
	園での保育に満足している保護者の割合 (保育園・幼稚園評価アンケート)	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位
		R1 99%	目標値 99	99	99	99	100	%
		実績値 97.4	96.6	96.2	97.7			幼稚教育課
目標値 の 考え方	保育園保護者アンケートに基づき、園での保育に満足している保護者の割合は、令和元年度が97%、令和2年度が98%であり、安心して子どもを預けることができる園運営が概ねとれていることを考慮し、上昇率を横ばいとした。また、幼稚園保護者アンケートでは令和元年度99%であるため100%を目標とした。							
	多様な保育への満足度 (保育園・幼稚園評価アンケート)	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位
		R1 86%	目標値 87	89	91	93	95	%
		実績値 84.2	87.1	76.5	77.1			幼稚教育課
目標値 の 考え方	保育園保護者アンケートに基づき、多様な保育への満足度は、令和元年度が86%、令和2年度が87%であり、事業によっては保育体制の見直し等を図り、多様化する子育て世帯のニーズに応じた保育サービスの向上を目指すことを考慮し、上昇率を2%とした。							
	1 (実績評価) ・待機児童は0人だった。							
	(次年度修正点) ・医療的ケア児の受け入れガイドラインを作成し、医療的ケア児のスムーズな受け入れが出来るように努める。							
R6 年度	2 (実績評価) ・幼稚園・保育園で実施した保護者アンケート結果の平均値(幼稚園99.7%・保育園95.6%)							
	(次年度修正点) ・園で実施している職員研修の充実を図る、職員の自己評価の方法を見直すなど、保育の質の向上に努めたい。また、ICTを活用し保護者とのコミュニケーション強化や、利便性の向上に努めていく。							
	3 (実績評価) ・保護者アンケートに基づき、多様な保育への満足度は77.1%であった。前年度から0.7ポイント回復したものの、令和5年度の落ち込みの影響が大きい。							
(次年度修正点) ・就労形態の多様化により、多様な保育のニーズが高まる中で、延長保育未実施の公立園での開所時間延長の検討や病児保育未実施の公立園での実施体制の計画など、保育サービスの向上を図る。								

担当課		高齢者福祉課		施策2－5の全指標達成率																
政策目標	2	誰もが健やかに暮らし活躍できるまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7											
施策分野	5	高齢者福祉の充実		指標数	21	21	21	21	21											
自指す姿	高齢者が地域の中でいきいきと生活できる		達成数	5	6	5	5	0												
	地域において住民相互で支え合い暮らすことができる		達成率	23.8%	28.6%	23.8%	23.8%	0.0%												
1 成果指標 (KPI)				指標数	3	3	3	3	3											
				達成数	0	0	0	0	0											
				達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%											
成果指標 1	元気な高齢者の割合<4月1日時点> (介護保険第1号被保険者のうち、要介護・要支援認定を受けていない高齢者の割合)		基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課										
			R2 84.1%	目標値 84.0	84.0	84.0	84.0	84.0	%	高齢者 福祉課										
目標値 の 考え方	本市は、令和3年度が高齢者人口のピークと推計され、以降は高齢者の中での高齢化が進むため、一般的には要介護認定を受ける割合が増えるものであるが、介護予防の取り組みを一層推進することによりその割合を維持させる。																			
成果指標 2	健康寿命（お達者度）		基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課										
			H28 男性 17.48年 女性 20.30年	目標値 男性18.08 女性20.84	男性18.22 女性20.93	男性18.37 女性21.01	男性18.51 女性21.10	男性18.65 女性21.19	年	健康推進課										
			実績値 —	—	—	—	—	以上												
成果指標 2	お達者年齢		基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課										
			※6	目標値 —	—	—	—	—	歳	健康推進課										
			実績値 男性79.0 女性84.2	男性78.8 女性84.2	男性78.9 女性83.6	R8.9公表		以上												
目標値 の 考え方	長く健康で自立した生活を送るため、静岡県の過去公表資料を基に推計した将来予測値を設定。今後、令和3年度以降の実績を基に、令和8年度以降の推計をしていく。																			
成果指標 3	生活支援センターの養成者数 (目標値は5年間累計)		基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課										
			R1 45人 (単年)	目標値 40	40	40	40	40	人	高齢者 福祉課										
			実績値 16	29	23	22	—	以上												
目標値 の 考え方	高齢者の日常生活を支援するボランティアである「生活支援センター」を養成し、地域の介護基盤の向上を図る。																			
R 6 年 度	生活支援センターは既に226人が養成されているが、高齢者数の増加に対応するために毎年40人のセンターを養成し、地域の支え合い活動及び介護予防を支援する。																			
1 (実績評価) ・介護予防事業が年間を通じて行えるようになったことにより、外出や交流の機会が戻ったため、前年度と同じポイントであった。																				
(次年度修正点) ・引き続き介護予防事業を積極的に実施し、フレイル予防・重症化防止を図る。																				
2 (実績評価) ・																				
(次年度修正点) ・																				
3 (実績評価) ・年度の養成数は目標値を下回ったが、登録者数は306人にのぼっている。より身近な地域での助け合い活動につながるよう、フォローアップ研修や2層協議体（地域の課題解決や活性化のために話し合う場）への参加も働きかけている。																				
(次年度修正点) ・生活支援センターの利用について広く市民に周知し、より活発な支援活動が行えるように取り組む。また地域づくりの担い手としてもボランティアが活躍できるよう、関係者のネットワークや体制づくりに努めていく。																				
※6 お達者度は令和5年度に公表された令和2年度実績をもって廃止となり、令和6年9月9日に公表された令和3年度実績からは、算出方法が異なるお達者年齢にて管理していくこととなったため、成果指標を変更する。令和3年度以降の実績を集計し、令和8年度以降の目標値を推計していく。																				

担当課		社会福祉課		施策2-6の全指標達成率					
政策目標	2	誰もが健やかに暮らし活躍できるまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	6	障がい者福祉の充実		指標数	13	13	13	13	13
目指す姿	障がい者（児）・その家族にとって障がい者（児）が安心して生活することができる		達成数	9	8	11	10	0	
	達成率	69.2%	61.5%	84.6%	76.9%	0.0%			
1 成果指標（KPI）				指標数	4	4	4	4	4
				達成数	3	3	3	3	0
				達成率	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	0.0%
成果指標1	相談支援事業所の相談件数		基準値		R3	R4	R5	R6	R7
			R1	目標値 7,920件	8,100	8,200	8,300	8,400	8,500
			実績値	8,295	10,467	9,328	9,127		
			評価	○達成	○達成	○達成	○達成	○達成	
目標値の考え方	平成28年度から令和元年度までの前年度対比では、その年度により増減が異なるが、総数全体は増加している。一方で相談を受ける事業所については新規事業所がなく、職員体制の変更がない状況である。そのため、令和元年度から毎年約100人の増加を見込んだ。								
成果指標2	障がい福祉サービス支給決定者数（実数）		基準値		R3	R4	R5	R6	R7
			R1	目標値 587人	603	610	617	624	630
			実績値	630	655	677	720		
			評価	○達成	○達成	○達成	○達成	○達成	
目標値の考え方	障がい福祉サービス支給決定者数は平成29年度559人、平成30年度573人、令和元年度587人と毎年10数人程度増加している。障がい者の高齢化（65歳到達）により、障害福祉サービスから介護保険のサービスへの移行も毎年微増している。そのため、令和3年度から毎年度7人程度の増加を見込んだ。								
成果指標3	市内企業の障がい者雇用率（年度末数値）		基準値		R3	R4	R5	R6	R7
			R1	目標値 2.02%	2.10	2.15	2.50	2.60	2.68
			実績値	2.29	2.07	2.12	2.29		
			評価	○達成	×未達成	×未達成	×未達成	×未達成	
目標値の考え方	令和3年4月に法定雇用率が2.3%に変更される。本市の実績は平成30年度が1.96%、令和元年度が2.02%となっている。その上昇率に近い0.05%を毎年度の上昇率と見込み、令和3年度を2.10%とし、計画期間内での目標達成を目指し、毎年度0.05%の上昇率とした。障がい者法定雇用率が令和6年4月に2.5%、令和8年7月に2.7%に段階的に引き上げられることが令和5年1月に通知された。これに伴い令和5年から令和7年の数値を新たな法定雇用率に合わせた数値目標とする。								
成果指標4	障がい福祉サービス利用後の一般就労者数		基準値		R3	R4	R5	R6	R7
			R1	目標値 3人	2	2	2	4	5
			実績値	1	3	7	6		
			評価	×未達成	○達成	○達成	○達成	○達成	
目標値の考え方	第6期障がい福祉計画（令和3年度から令和5年度）では令和元年度実績を基に市の基本方針（1.23%以上）を踏まえ3年度で6人としている。また、同計画でもハローワーク等の関係機関との連携を強化し、一般就労への移行を努めることとしている。そのため、令和6年度以降の一般就労移行者を増やすため、令和6、7年度の数値を設定した。								
R6年度	1（実績評価）・電話相談等の多様な相談手段により、前年を下回ったものの、相談件数は目標値を上回った。 (次年度修正点)・相談件数はコロナ渦以降減少傾向にある。また、相談支援事業所及びその相談員が増えないため、修正はなし。								
	2（実績評価）・発達障害などの軽度の障害に対する理解が進み、放課後ティーサービス等、障がい児の利用者が増加した。また、令和6年度中に新規自立訓練事業所の開設もあり、利用者が前年度より増加した。 (次年度修正点)・今後も相談支援事業所等からの報告を受け、障害福祉サービスの必要な方へ支給決定を行う。								
	3（実績評価）・市内企業の障がい者雇用率は増加傾向にあるが、目標値までは達成していない状況である。 (次年度修正点)・令和8年度以降法定雇用率が引き上げられるため、より一層ハローワーク伊東等と連携を強化し、法定雇用率の確保を目指す。								
	4（実績評価）・障害者就労・生活支援センターや就労継続支援事業所の支援により、前年より微減であるが、目標値を上回った。 (次年度修正点)・引き続き、ハローワーク伊東等と連携を図る。								

担当課	社会福祉課	施策2-7の全指標達成率							
政策目標	2 誰もが健やかに暮らし活躍できるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
施策分野	7 地域福祉の充実	指標数	14	14	14	14	14		
目指す姿	支援を必要とする人が住み慣れた地域の中で支え合い共に暮らすことができる	達成数	9	8	9	7	0		
	地域の多くの人が地域福祉活動等へ参加することで地域が活性化される	達成率	64.3%	57.1%	64.3%	50.0%	0.0%		
1 成果指標 (KPI)		指標数	2	2	2	2	2		
		達成数	1	0	1	0	0		
		達成率	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%		
成果指標 1	「地域内の助け合いなどの地域福祉の充実」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		R2 63.2%	目標値 64.0	64.0	64.0	65.0	65.0	%	社会福祉課
目標値の考え方	平成30年度実績63.4%、令和元年度実績59.0%で、令和元年度以前3年間の平均割合が61.53%。年度により評価に差があるため、安定した評価が得られるよう業務に取り組み、基準値から2%以上の上昇が達成できるよう65.0%以上とした。	実績値	64.3	62.4	64.1	63.9			
		評価	○ 達成	✗ 未達成	○ 達成	✗ 未達成		以上	
成果指標 2	ボランティアセンターによるボランティア活動あっ旋件数	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		R1 18件	目標値 25	30	40	50	60	件	社会福祉課
目標値の考え方	平成30年度実績34件、令和元年度実績18件と利用数が減少傾向にあることから、地域の実情と利用者のニーズ把握に努め、ボランティア活動の利用増を目指していくため、毎年10件増の目標値設定とした。	実績値	8	7	9	10			
		評価	✗ 未達成	✗ 未達成	✗ 未達成	✗ 未達成		以上	
R6年度	1 (実績評価) ・少子高齢化や核家族化の更なる進行に伴い、隣近所との付き合いが減り、人間関係の希薄化が進むなど、多くのことが疎遠になってしまったことが、一人一人の不安を生み、「満足していない」数値に現れ、目標値を下回る結果となったと思われる。								
	(次年度修正点) ・人と人との関わり合いが薄れ、相談や支援が行き届かなくなってきたことから、地域福祉に関する広報活動を積極的に行い、関わり合いができる環境づくりに努めていく。								
	2 (実績評価) ・昨年度より件数は増加したが、個人からの依頼は減ったまま回復せず、件数を伸ばすことができなかった。								
	(次年度修正点) ・引き続き、事業所との情報交換や各種催しにおいてニーズ調査を行うなどの取組を検討していく。								

担当課	市民課・社会福祉課・教育指導課	施策2-8の全指標達成率							
政策目標	2 誰もが健やかに暮らし活躍できるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
施策分野	8 多様性のある社会の実現	指標数	10	10	10	10	10		
目指す姿	市民がお互いの個性と多様性を認め合い、いきいきと暮らすことができる	達成数	5	4	6	5	0		
		達成率	50.0%	40.0%	60.0%	50.0%	0.0%		
1 成果指標 (KPI)		指標数	1	1	1	1	1		
		達成数	0	0	0	0	0		
		達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
成果指標	「お互いの個性と多様性を認め合う社会の実現」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		R2 59.2%	目標値 60.2	61.4	62.6	63.8	65.0	%	市民課
目標値の考え方	お互いの個性と多様性を認め合う社会の実現に満足している市民の割合は、令和2年度からの調査項目であり、各年度1%程度の上昇を見込み、65.0%とした。	実績値	57.0	54.6	62.0	60.8			
		評価	✗ 未達成	✗ 未達成	✗ 未達成	✗ 未達成		以上	
R6年度	(実績評価) ・令和6年度実施の市民満足度調査結果は実績値60.8%で、目標値及び前年度よりも低い結果となり、「お互いの個性と多様性を認め合う社会の実現」に満足している市民の割合を増やすことができなかった。								
	(次年度修正点) ・引き続き各分野の基本的な取組において管理指標目標値を適宜見直し、回数を管理指標としているものについては確実に実行する。								

担当課		保険年金課、健康推進課		施策2-9の全指標達成率										
政策目標	2	誰もが健やかに暮らし活躍できるまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7					
施策分野	9	保険・年金制度の運営		指標数	15	15	15	15	15					
目指す姿		制度加入者が制度の理解を深め、生涯にわたり安心して保険・年金サービスを享受できる		達成数	9	9	9	11	0					
				達成率	60.0%	60.0%	60.0%	73.3%	0.0%					
1 成果指標 (KPI)				指標数	2	2	2	2	2					
				達成数	2	2	2	2	0					
				達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%					
成果指標 1	制度理解の醸成等を図るための広報による周知			基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課		
	26回			R1	目標値	27	28	29	30	31	回	保険年金課		
				実績値	29	30	35	34						
				評価	○達成	○達成	○達成	○達成						
目標値 の 考え方	国民健康保険・後期高齢者医療保険・国民年金制度周知に関する広報紙記事掲載回数													
成果指標 2	公平な負担に対する意識向上の取組や適正なサービス受給のための相談会の実施			基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課		
	54回			R1	目標値	54	54	54	54	54	回	保険年金課		
				実績値	54	54	60	54						
				評価	○達成	○達成	○達成	○達成						
目標値 の 考え方	国民健康保険税納付・後期高齢者医療保険料納付・国民年金受給に関する相談会開催回数													
R 6 年 度	<p>1(実績評価)・市民の理解を深めることを目的として、改正又は新制度についても適正回数の周知を実施したため、目標を達成できた。</p> <p>(次年度修正点)・関係機関との更なる連携を深め、迅速な情報収集に努める必要がある。</p> <p>2(実績評価)・公平な賦課、納付、給付を目的として、適正回数の相談会等を実施したため、目標を達成できた。</p> <p>(次年度修正点)・納付相談会については、今後も必要な回数を確保するとともに、年金相談会については、遗漏無き案内を可能とするよう、職員のスキルアップに努める必要がある。</p>													

第十一次基本計画 実施計画（目的指向体系表）

政策目標3 良好的な環境が広がり快適に暮らせるまち

- 施策3-1 自然との共生社会の推進
- 施策3-2 循環型社会の推進
- 施策3-3 生活排水対策の充実
- 施策3-4 安全でおいしい水の安定供給
- 施策3-5 魅力的な都市空間の創造
- 施策3-6 公共交通体系の充実
- 施策3-7 道路環境の整備

担当課		環境課・産業課		施策3-1の全指標達成率									
政策目標	3	良好な環境が広がり快適に暮らせるまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7				
施策分野	1	自然との共生社会の推進		指標数	12	12	12	12	12				
目指す姿		市民・事業者・ボランティア団体の一人一人の取組により、豊かな自然や快適な生活環境が維持・保全されている		達成数	6	7	8	7	0				
				達成率	50.0%	58.3%	66.7%	58.3%	0.0%				
1 成果指標 (KPI)				指標数	3	3	3	3	3				
				達成数	1	1	1	2	0				
				達成率	33.3%	33.3%	33.3%	66.7%	0.0%				
成果指標1	公害の迷惑行為に寄せられる苦情件数		基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課		
			R1	目標値	17	17	16	16	15	件	環境課		
			18件	実績値	35	36	28	12					
				評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	○ 達成		以下			
目標値の考え方	公害に関する迷惑行為をしないように広報等を通じた啓発等を実施することで、苦情案件への指導が減少する効果を考慮し、目標値を設定												
成果指標2	愛護動物の迷惑行為に寄せられる苦情件数		基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課		
			R1	目標値	26	23	21	18	15	件	環境課		
			30件	実績値	37	42	36	49					
				評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成		以下			
目標値の考え方	飼養している愛護動物の適切な管理について広報等を通じた啓発等を実施することによる効果を考慮し、目標値を設定												
成果指標3	伊東市森林整備計画に基づき間伐を行った森林面積（累計）		基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課		
			R1	目標値	16.8	18.3	19.8	22.1	累計22.8	ha	産業課		
			13.8ha	実績値	18.1	21.7	23.9	27.2					
				評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	○ 達成		以上			
目標値の考え方	伊東市内の森林において、過去に実施した間伐面積の年平均が1.54haであったため、各年度の間伐実施面積を1.5ha/年として見込み、累計22.8haと設定した。												
R6年度	1 (実績評価) ・公害に関する迷惑行為をしないように広報等を通じた啓発等を実施してきたことが、実を結んだ。 (次年度修正点) ・公害に関する迷惑行為をしないように、引き続き広報等を通じた啓発等を実施する。												
	2 (実績評価) ・飼養している愛護動物の適切な管理について広報等を通じて啓発等を実施したが、苦情件数は目標値を上回った。 (次年度修正点) ・広報いとうや市HPにて飼育している愛護動物の適正管理について啓発活動を行っていくとともに、苦情対象者については、熱海保健所と連携し、適正飼育について指導を行い、再発防止を図る。												
	3 (実績評価) ・令和6年度の目標値22.1haを上回る27.2haを整備し目標を達成することができた。 (次年度修正点) ・継続して森林整備を行っていく。												

担当課		環境課		施策3-2の全指標達成率								
政策目標	3	良好な環境が広がり快適に暮らせるまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7			
施策分野	2	循環型社会の推進		指標数	12	12	12	12	12			
目指す姿		市民、滞在者、事業者がごみの減量・資源化と温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいる		達成数	6	5	6	6	0			
				達成率	50.0%	41.7%	50.0%	50.0%	0.0%			
1 成果指標 (KPI)												
成果指標 1	可燃ごみの排出量		指標数	2	2	2	2	2				
			達成数	2	2	1	1	0				
			達成率	100.0%	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%				
			基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課		
			R1	目標値	29,696	29,548	29,399	29,250	29,101	t	環境課	
目標値の考え方			実績値	28,208	28,450	27,781	27,372					
			評価	○達成	○達成	○達成	○達成					
			30,758 t						以下			
目標値の考え方			基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課		
			R1	目標値	1800	1850	1900	1950	2000	%	環境課	
			17.85%	実績値	18.43	18.87	18.04	17.69				
			評価	○達成	○達成	×未達成	×未達成					
									以上			
過去の可燃ごみ量の実績を元に、今後の将来人口予測とごみの排出抑制施策や減量化施策による効果を踏まえ、目標値を設定												
R6年度	リサイクル率（総資源化量／総ごみ量）		基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課		
			R1	目標値	1800	1850	1900	1950	2000	%	環境課	
			17.85%	実績値	18.43	18.87	18.04	17.69				
			評価	○達成	○達成	×未達成	×未達成					
過去のリサイクル率を元に、市民に対する適正な分別の徹底や新たな品目の資源化施策による効果を踏まえ、目標値を設定												
1 (実績評価) ・ごみの排出抑制施策や減量化施策の推進により、目標を達成できた。												
(次年度修正点) ・目標達成に向けて、引き続き排出量の抑制を図る。												
2 (実績評価) ・ガラスびんや古紙回収量の減少から、令和6年度は目標を達成できなかった。												
(次年度修正点) ・資源ごみにおける割合が高い古紙がDX化の推進により減少して、リサイクル率を高めることが難しい状況となっているが、引き続き広報に努め、リサイクル意識の向上を図る。												

担当課		下水道課・環境課		施策3-3の全指標達成率									
政策目標	3	良好な環境が広がり快適に暮らせるまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7				
施策分野	3	生活排水対策の充実		指標数	14	14	14	14	14				
目標値の考え方				達成数	6	10	6	8	0				
				達成率	42.9%	71.4%	42.9%	57.1%	0.0%				
1 成果指標 (KPI)													
R6年度	環境基準（河川BOD・海域COD）		指標数	3	3	3	3	3					
			達成数	3	3	3	3	0					
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%					
			基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課			
			R1	目標値	2	2	2	2	2	mg/l	下水道課		
			0.9mg/l	実績値	0.8	0.7	0.7	0.9		以下			
			評価	○達成	○達成	○達成	○達成						
			R1	目標値	3	3	3	3	3	mg/l	下水道課		
			1.0mg/l	実績値	0.9	0.8	0.9	0.8		以下			
			評価	○達成	○達成	○達成	○達成						
			R1	目標値	2	2	2	2	2	mg/l	下水道課		
			1.5mg/l	実績値	1.5	1.3	1.4	1.0		以下			
			評価	○達成	○達成	○達成	○達成						
目標値は国の環境基準（排出基準）とし、下水道整備により良好な水質を保全し、将来に渡って維持していくことを目標とする。													
(実績評価) ・公共下水道供用開始区域の未接続者への勧奨通知送付等による水洗化率増加の取組を実施し、生活排水の適正な処理を行うことで生活環境の向上に努めた。													
(次年度修正点) ・継続的な下水道接続促進策の実施、公衆衛生の向上及び公共水域の適正な水質保全管理の維持に努める。													

担当課		水道課		施策3-4の全指標達成率										
政策目標	3	良好な環境が広がり快適に暮らせるまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7					
施策分野	4	安全でおいしい水の安定供給		指標数	10	10	10	10	10					
目指す姿		水道使用者が安全でおいしい水を安定的に使用することができる		達成数	6	6	7	8	0					
				達成率	60.0%	60.0%	70.0%	80.0%	0.0%					
1 成果指標 (KPI)				指標数	1	1	1	1	1					
				達成数	0	0	0	0	0					
				達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%					
成果指標		「安全でおいしい水の安定供給」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値 R2 88.0%	目標値	88.4	88.8	89.2	89.6	90.0	% 以上	担当課 水道課			
				実績値	88.1	86.7	85.4	84.4						
				評価	×	未達成	×	未達成	×					
目標値の考え方		本市の水道水に対する市民の満足度は高い水準を維持しているが、湧水及び井戸水が9割を占める本市の水道水を積極的にPRしていくとともに、計画的な老朽化施設の更新や耐震化を推進することにより、さらなる市民満足度の向上が可能と考える。												
		R6 年度 (実績評価) ・目標値には達しなかったものの、市民満足度調査の結果から高水準の満足度を維持していると考える。												
(次年度修正点) ・安全でおいしい水の安定供給を継続するため、計画的な水道施設の更新を進めることにより、更なる満足度の向上に努める。														

担当課		都市計画課・建築住宅課・市民課		施策3-5の全指標達成率										
政策目標	3	良好な環境が広がり快適に暮らせるまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7					
施策分野	5	魅力的な都市空間の創造		指標数	19	19	20	21	20					
目標値の考え方		市域で地域特性を生かした安全で快適な市街地が形成され、景観に配慮されている		達成数	14	12	13	10	0					
				達成率	73.7%	63.2%	65.0%	47.6%	0.0%					
1 成果指標 (KPI)				指標数	2	2	2	2	2					
				達成数	1	0	0	0	0					
				達成率	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%					
成果指標1		「海岸・高原・住宅地及び市街地の街並みなどの良好な景観の形成」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値 R2 58.3%	目標値	60.0	62.0	63.0	64.0	65.0	% 以上	担当課 都市計画課			
				実績値	58.9	54.2	59.5	59.2						
				評価	×	未達成	×	未達成	×					
目標値の考え方		「海岸・高原・住宅地及び市街地の街並みなどの良好な景観の形成」に満足している市民の割合は、平成30年度実績57.1%、令和元年度実績55.5%、令和2年度実績58.3%を参照し、各年度1%程度の上昇を見込み、65%以上とした。												
		R6 年度 1 (実績評価) ・伊東市景観形成基本計画及び伊東市景観計画に基づき、東海館（松川）周辺地区を重要景観形成地区として指定すべく伊東市景観審議会に諮問するとともに、次期指定地区である大室山周辺の関係者とのワークショップなどを開催した。												
目標値の考え方		(次年度修正点) ・東海館（松川）周辺地区の重要景観形成地区への指定に際し、伊東市景観審議会での速やかな答申を行うとともに、大室山周辺地区的関係者の意見集約等を進めていく。												
		2 (実績評価) ・人々の生活や経済活動等により形成される事業と伊東の自然、歴史、文化と調和がとれるよう、主に土地利用事業等の適正化に関する指導要綱に基づき指導を行った。												
(次年度修正点) ・状況に応じ指導要綱等の基準の見直しを行い、調和が図れるよう適正な指導を行っていく。														

担当課		都市計画課		施策3－6の全指標達成率								
政策目標	3	良好な環境が広がり快適に暮らせるまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7			
施策分野	6	公共交通体系の充実		指標数	15	15	15	15	15			
目指す姿		市民、観光客等にとって持続可能な地域公共交通が確保・維持されている		達成数	8	7	8	10	0			
				達成率	53.3%	46.7%	53.3%	66.7%	0.0%			
1 成果指標 (KPI)				指標数	2	2	2	2	2			
成果指標 1	「バス・鉄道などの公共交通対策の充実」に満足している市民の割合（市民満足度調査）			達成数	0	0	0	0	0			
				達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
目標値の考え方	公共交通の満足度については、市民満足度調査を管理指標としており、令和元年度は31.7%、令和2年度はコロナ禍において、バス、電車の減便があるなか35.3%と上昇傾向である。満足度調査結果を基に10%の上昇を見込み45%とした。			基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位		
				R2	目標値 37.0	39.0	41.0	43.0	45.0	%		
成果指標 2	鉄道、路線バス、デマンド交通、タクシーの年間利用者数			実績値 35.3%	34.4	33.6	30.1	25.8		都市計画課		
				評価	×	未達成	×	未達成	×	未達成		
目標値の考え方	鉄道、路線バス、デマンド交通、タクシーの年間利用者数は、人口は減少傾向にあり年間利用者数の減少が懸念されるところ、利用促進等の取組による年間利用者数の維持を見込み、現状維持とした。			基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位		
				R1	目標値 8,651千人	8,651	8,651	8,651	8,651	千人		
R6 年度	1 (実績評価) ・令和12年度までを計画期間とする新たな地域公共交通計画を策定した他、交通空白地域の解消に向け、民間事業者と地域の交通事業者が連携して実施する新たなモビリティに関する実証運行に市も積極的に参画した。			実績値	4,658	5,900	6,508	6,805		都市計画課		
				評価	×	未達成	×	未達成	×	未達成		
2 (実績評価) ・路線バス事業者が新たなwebサービスを導入したこと、時刻表やバスロケーションサービスの使い勝手が改善されたほか、タクシー各社も配車アプリを導入するなど、DX化によるユーザビリティ向上が図られている。	(次年度修正点) ・民間事業者による実証事業を継続して支援するほか、市として交通空白地域に対する考え方や新たなモビリティの必要性について解像度を高め、公共交通の現状を市民と意識共有していきたい。											
				・未達成の要因としては、路線バスの運賃値上げや減便を伴うダイヤ改正など、公共交通のネガティブイメージが先行しているものと考える。								
2 (実績評価) ・運転士不足の中、利便性を損なわない輸送のため、継続して運行路線や便数の見直しを行うほか、スマホ連動型の交通マップの制作も進め、分かりやすい公共交通サービスの提供に努めたい。	(次年度修正点) ・未達成の要因としては、人口減少や旅行需要の低下、自動車を保有する市民が、運賃の高い公共交通の利用を回避する傾向が強いと推測する。											
担当課		建設課		施策3－7の全指標達成率								
政策目標	3	良好な環境が広がり快適に暮らせるまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7			
施策分野	7	道路環境の整備		指標数	16	16	16	16	16			
目指す姿		市域において円滑・安全・安心・快適な道路環境が維持できている		達成数	9	8	6	6	0			
				達成率	56.3%	50.0%	37.5%	37.5%	0.0%			
1 成果指標 (KPI)				指標数	2	2	2	2	2			
成果指標 1	道路瑕疵による事故発生件数			達成数	0	0	0	0	0			
				達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
目標値の考え方	良好な道路環境を保つために、道路パトロールの実施、計画的な修繕及び補修に関する市民要望への迅速かつ的確に対応して被害を無くす。			基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位		
				R1	目標値 0件	0	0	0	0	件		
成果指標 2	幹線市道の整備率			実績値 0件	21	5	3	3		建設課		
				評価	×	未達成	×	未達成	×	未達成		
目標値の考え方	幹線市道の狭隘箇所やすれ違い困難箇所などを解消し、良好な道路環境を創出する。			基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位		
				R1	目標値 95.7%	96.7	97.2	97.7	98.1	%		
R6 年度	1 (実績評価) ・市民からの要望に対し迅速な対応に努めたが、沿線樹木の枝落下による事故等があり、目標値の達成には至らなかった。			実績値	95.8	95.9	96.2	96.2		建設課		
				評価	×	未達成	×	未達成	×	未達成		
2 (実績評価) ・幹線市道の拡幅改良などの工事が実施できず、目標値の達成には至らなかった。	(次年度修正点) ・市道の路面や沿道樹木の状態把握等に細心の注意を払い、良好な道路環境を目指す。											
(次年度修正点) ・粘り強く用地交渉を行い、工事着手を目指す。												

第十一次基本計画 実施計画（目的指向体系表）

政策目標4 心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち

- 施策4-1 教育環境の整備
- 施策4-2 未来を創る教育の充実（小・中学校）
- 施策4-3 生涯学習活動の推進
- 施策4-4 青少年の健全な育成
- 施策4-5 市民スポーツ活動の推進
- 施策4-6 歴史・芸術文化の振興
- 施策4-7 郷土愛の醸成

担当課	教育総務課	施策4-1の全指標達成率						教育総務課
政策目標	4 心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
施策分野	1 教育環境の整備	指標数	18	18	19	19	19	
目指す姿	児童・生徒・教職員・保護者にとって児童・生徒が学習しやすい環境が整っている	達成数	14	11	12	12	0	
		達成率	77.8%	61.1%	63.2%	63.2%	0.0%	
1 成果指標 (KPI)		指標数	3	3	3	3	3	
		達成数	3	3	3	3	0	
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	
成果指標1	児童生徒1人当たりの教育用コンピュータ数	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位
		R1	目標値 0.16台	1	1	1	1	台
			実績値 1.03	1.07	1.11	1.14		教育総務課
			評価 ○達成	○達成	○達成	○達成		以上
目標値の考え方	国が推進するGIGAスクール構想（※）における児童生徒1人1台端末を目標値とした。 ※GIGAスクール構想・・・1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する。							
成果指標2	長寿命化計画に基づく具体的な改修計画の策定・改修の実施	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位
		R2	目標値 0/14	1/14	1/12	1/12		校
		未策定	実績値 0/14	1/14	1/12	1/12		教育総務課
			評価 ○達成	○達成	○達成	○達成		以上
目標値の考え方	統廃合が決定している学校（東・西・旭小）及び児童生徒数を考慮し、今後存続することが確実であると考えられる学校（南小・南中・大池小・門野中）について優先的に計画を策定し、改修を実施することとする。（目標値は改修実施済みの学校数）							
成果指標3	異物混入、アレルギー、食中毒等、給食を原因として人体に影響を及ぼす事故の発生件数	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位
		R1	目標値 0件	0	0	0	0	件
			実績値 0件	0	0	0	0	教育総務課
			評価 ○達成	○達成	○達成	○達成		以上
目標値の考え方	食物アレルギーを持つ児童生徒が全国的に増加傾向の中で、大量調理の給食センターや施設の老朽化が著しい学校の給食室において、異物混入、アレルギー、食中毒等、給食を原因として人体に影響を及ぼす事故の発生を防ぎ、引き続き安全安心な給食を提供する。							
R6年度	1（実績評価）・令和6年度の児童生徒数3,266人に対し、端末3,723台（令和6年度末）を整備した。							
	（次年度修正点）・今後の端末故障が増加傾向にあることから、引き続き目標値を達成できるよう適切に修繕等を行っていく。							
	2（実績評価）・令和6年度の実績はなし。							
	（次年度修正点）・市内小・中学校の統合計画の進捗に合わせ、長寿命化計画を策定していく。							
	3（実績評価）・アレルギーガイドブックの改訂により主要7品目から8品目に変更されたことにより、くるみについても除去食対応を実施した。年度当初の会議等において各校で実施方法を共有し、事故を未然に防止する体制を整えることができた。							
	（次年度修正点）・ヒヤリハットを共有することで重大事案の発生を未然に防止できるよう、毎年アレルギー対策委員会を開催し、原因となつた事例の再発防止について確認し、事故発生防止に向けて共通認識できている。							

担当課		教育指導課		施策4-2の全指標達成率						
政策目標	4	心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7	
施策分野	2	未来を創る教育の充実（小・中学校）		指標数	20	22	22	23	23	
目指す姿	児童・生徒が夢や希望を抱くことができる			達成数	8	9	9	7	0	
	子どもたちが夢や希望を育むことのできる魅力ある学校			達成率	40.0%	40.9%	40.9%	30.4%	0.0%	
1 成果指標（KPI）										
成果指標 1				指標数	2	2	2	2	2	
				達成数	1	1	1	1	0	
				達成率	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	
目標値 の 考え方	学校が楽しいと思う子どもの割合【小学校】（学校生活アンケート）			基準値	R3	R4	R5	R6	R7	
				R2	目標値	90.2	91.5	92.7	94.0	95.0
				89.1%	実績値	88.1	87.2	88.8	88.1	
					評価	X 未達成	X 未達成	X 未達成	X 未達成	% 以上
児童を対象とした学校評価（学校生活アンケート）の「学校がたのしいですか」との質問に対し、「かなり当てはまる」「まあ当てはまる」と回答した児童の割合。 小学校では、令和元年度実績88.6%、令和2年度実績89.1%と各年度0.5ポイントの上昇幅にとどまっているが、各年度1ポイント程度の上昇を目指とした。										
目標値 の 考え方	学校が楽しいと思う子どもの割合【中学校】（学校生活アンケート）			基準値	R3	R4	R5	R6	R7	
				R2	目標値	86.0	87.0	88.0	89.0	90.0
				85.7%	実績値	88.3	88.4	89.1	90.5	
					評価	O 達成	O 達成	O 達成	O 達成	% 以上
生徒を対象とした学校評価（学校生活アンケート）の「学校がたのしいですか」との質問に対し、「かなり当てはまる」「まあ当てはまる」と回答した生徒の割合。 中学校では、令和元年度実績83.6%、令和2年度実績85.7%を参考とし、各年度2%上昇を見込むところだが、令和2年度の上昇率が大きかったことや生徒の主観によるところが大きいことを考慮し、上昇幅を抑え各年度1ポイント程度とした。										
R6 年度	1（実績評価）・令和5年度よりも微減となった。不登校の出現も少なくなく、引き続き学ぶ楽しさを育む授業作りの推進や、学校生活のあり方について検討推進していく必要がある。 (次年度修正点)・90%を超えていない現状から、さらに目標値に迫る手立てを推進していきたい。									
	2（実績評価）・1.4ポイント増加し、90%を超えることができた。体験型の授業作りの推進や、自己指導能力を育む生徒指導の実践の成果が出始めていると考えられる。 (次年度修正点)・さらに達成率を高められるように、具体的な手立てを推進していきたい。									

担当課	生涯学習課	施策4-3の全指標達成率				
政策目標	4 心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち	年度	R3	R4	R5	R6
施策分野	3 生涯学習活動の推進	指標数	11	11	11	11
目指す姿	市民が生涯にわたる学びや活動に参加し、豊かさを享受できる	達成数	2	2	2	2
		達成率	18.2%	18.2%	18.2%	18.2%
						0.0%

1 成果指標 (KPI)		指標数	2	2	2	2	2
		達成数	0	0	0	0	0
		達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
成果指標 1	「生涯学習活動の推進」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値	R3	R4	R5	R6	R7
		R2 74.7%	目標値 75.3	75.9	76.6	77.2	78.0
			実績値 72.8	69.4	61.4	61.3	
			評価 × 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成	
目標値 の 考え方	市民満足度調査を参考することにより、市民の中から無作為に抽出された広範囲の皆様の意見や評価を把握することが可能となるため。						
成果指標 2	市民一人当たりの図書貸出冊数	基準値	R3	R4	R5	R6	R7
		R1 2.81冊	目標値 2.88	2.92	2.95	3.28	3.76
			実績値 2.70	2.57	2.50	1.89	
			評価 × 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成	
目標値 の 考え方	総貸出数を新図書館の開館に向けた令和5年度までは毎年度1,000冊、開館年度となる令和6年度は20,000冊、令和7年度は30,000冊増やすことを目標とする。なお、人口数は今後の人口減少を想定し毎年度500人減で算出している。（基準値：総貸出数＝令和元年度192,472+1,000冊÷193,500冊①、人口＝令和元年度人口平均68,505人-500人÷68,000人②から、①÷②÷2.85冊）						
R 6 年 度	1 (実績評価) • 市民ニーズの高い事業を実施できるよう毎年内容を見直しており、情報発信についても、積極的にSNS等を活用しているが、目標に達していないことに鑑みると、周知が一定の人にしか伝わっていない可能性があると考える。また、施設の老朽化による故障など環境整備の状況も満足度が上がらない原因と考える。						
	(次年度修正点) • より多くの方に情報が行き届くよう、年代により発信方法を変更する等、研究、実施していく。また、施設の老朽化については、計画的な修繕を実施するなど活動場所の環境整備を心掛ける。						
R 6 年 度	2 (実績評価) • 図書館の外壁が崩落し、令和6年12月19日から令和7年3月31日までの間、図書館を臨時休館したことが、来館者数及び貸出冊数が大幅に減少した主な原因であると考える。						
	(次年度修正点) • 時勢・トレンドを反映した選書や蔵書構成について考慮するとともに、企画展示など図書資料の配架に工夫をし、多くの市民が本を手に取り、読みたいと感じられるような図書館運営に努める。						

担当課	生涯学習課	施策4-4の全指標達成率					
政策目標	4 心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち	年度	R3	R4	R5	R6	
施策分野	4 青少年の健全な育成	指標数	10	10	10	10	
目指す姿	次代を担う青少年が、豊かな人間性・社会性を身に着け、地域とともに健やかに育つことができる	達成数	5	6	6	7	
		達成率	50.0%	60.0%	60.0%	70.0%	
						0.0%	
1 成果指標 (KPI)		指標数	1	1	1	1	
		達成数	0	0	0	0	
		達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
成果指標 1	小・中・高生一人当たりの地域学校協働活動への参加回数	基準値	R3	R4	R5	R6	
		R1 1.35回	目標値 1.43	1.49	1.55	1.61	
			実績値 0.44	0.95	0.74	0.82	
			評価 × 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成	
目標値 の 考え方	令和7年度にかけて市内小・中・高生の人数が1,000人以上減少する見込みの中で、地域学校協働活動への参加を促す事により、青少年の健全な育成に資する。なお、地域学校協働活動への参加者数は、①あいさつ運動（一斉活動）、②放課後子ども教室、③ふるさと教室、④夢チャレンジくらぶへの延参加者数の合計とする。						
R 6 年 度	1 (実績評価) • ふるさと教室、夢チャレンジくらぶ、放課後子ども教室への参加者は増加傾向にあるが、あいさつ運動への参加者（報告数）は学校統廃合を機に減少しており、今年度も目標値を下回った。						
	(次年度修正点) • 各講座の参加定員の見直しを検討しつつ、多くの子供たちが楽しんで参加できるよう努める。						

担当課		生涯学習課		施策4-5の全指標達成率									
政策目標		4 心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7				
施策分野		5 市民スポーツ活動の推進		指標数	7	8	8	8	8				
目指す姿		市民が気軽に快適にスポーツに取り組むことができ、生涯にわたって健康を維持することができる		達成数	3	2	3	2	0				
				達成率	42.9%	25.0%	37.5%	25.0%	0.0%				
1 成果指標 (KPI)					指標数	1	1	1	1				
					達成数	0	0	0	0				
					達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%				
成果指標 1	「市民スポーツ活動の支援」に満足している市民の割合（市民満足度調査）			基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位 担当課			
				R2	目標値	74.5	76.0	77.5	78.5	80.0	% 生涯学習課		
				73.3%	実績値	72.7	68.7	68.2	70.4		以上		
					評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
目標値の考え方	市民満足度調査を参考することにより、市民の中から無作為に抽出された広範囲の皆様の意見や評価を把握することが可能となるため。												
	R6 年度 1 (実績評価) ・目標値は下回ったものの、老朽化した大原武道場トレーニング室の機器更新や、ニュースポーツふれあいフェスタの誘致により、市民満足度が上昇したと考えられる。 (次年度修正点) ・引き続き老朽化した施設及び機器の更新に努めるとともに、ボッチャを始めとするニュースポーツの普及に努める。												

担当課		生涯学習課・企画課		施策4-6の全指標達成率									
政策目標		4 心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7				
施策分野		6 歴史・芸術文化の振興		指標数	10	10	10	10	10				
目指す姿		市民が歴史、芸術文化に触れ、心を豊かにするとともに、後世に伝えることができる		達成数	2	2	2	2	0				
				達成率	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%				
1 成果指標 (KPI)					指標数	2	2	2	2				
					達成数	0	0	0	0				
					達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%				
成果指標 1	「芸術・文化に触れる機会の充実」に満足している市民の割合（市民満足度調査）			基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位 担当課			
				R2	目標値	64.0	65.5	67.0	68.5	70.0	% 生涯学習課		
				62.7%	実績値	61.8	57.8	61.9	62.2		以上		
					評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
目標値の考え方	市民満足度調査を参考することにより、市民の中から無作為に抽出された広範囲の皆様の意見や評価を把握することが可能となるため。												
	R6 年度 1 (実績評価) ・実績値が前年度を上回ったものの、目標値には至らなかった。 (次年度修正点) ・観光会館文化事業入場者数及び芸術祭観客数は前年度を上回るなど、芸術・文化に対する関心は高いと考える。振興公社及び文化協会と連携し、魅力ある事業を提供することで、市民の皆様の満足度向上が図られるよう努める。												
成果指標 2	「史跡・郷土芸能の保存」に満足している市民の割合（市民満足度調査）			基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位 担当課			
				R2	目標値	76.8	77.6	78.4	79.2	80.0	% 生涯学習課		
				75.9%	実績値	76.6	70.7	75.0	75.4		以上		
					評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
目標値の考え方	市民満足度調査を参考することにより、市民の中から無作為に抽出された広範囲の皆様の意見や評価を把握することが可能となるため。												
	R6 年度 2 (実績評価) ・実績値が前年度を上回ったものの、目標値には至らなかった。 (次年度修正点) ・引き続き史跡に関する情報発信に努める。また、無形民俗文化財保存団体連絡制度や伝統文化育成事業補助金の活用を通して、団体に対する支援に努める。												

担当課	企画課・観光課	施策4-7の全指標達成率							
政策目標	4 心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
施策分野	7 郡士愛の醸成	指標数	5	5	4	4	4		
目指す姿	本市の将来を担う高校生が生まれ育ったまちに誇りを持ち、「住み続けたい」「離れても将来戻ってきたい」と思える	達成数	1	1	1	1	0		
		達成率	20.0%	20.0%	25.0%	25.0%	0.0%		
1 成果指標 (KPI)		指標数	2	2	2	2	2		
		達成数	1	1	1	1	0		
		達成率	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%		
成果指標 1	伊東市に将来戻ってきたいと思う高校生の割合（高校生アンケート）	基準値 R2 58.0%	R3	R4	R5	R6	R7	単位 %	担当課 企画課 以上
目標値 の 考え方	伊東市に将来戻ってきたいと思う高校生の割合は、令和元年度実績56.4%、令和2年度実績58.0%を参照し、各年度1%程度の上昇を見込む中で65.0%とした。								
成果指標 2	郷土に誇りと愛着を持っている高校生の割合（高校生アンケート）	基準値 R2 71.6%	R3	R4	R5	R6	R7	単位 %	担当課 企画課 以上
目標値 の 考え方	郷土に誇りと愛着を持っている高校生の割合は、令和2年度からの調査項目であり、令和2年度実績71.6%から、各年度1%程度の上昇を見込んだが、4人中3人を目標に75.0%とした。								
R 6 年 度	<p>1 (実績評価) ・昨年度より増加したものの、目標値には届かなかった。昨年度に引き続き、未来ビジョン会議の委員に高校生を選び出し、高校生委員の人数を3人から5人に増やすことにより、高校生の視点による“戻ってきたいまちづくり”的アイデアを伺う機会を増やした。</p> <p>(次年度修正点) ・将来戻ってきたいと思うまちづくりについて若者の視点による良いアイデアや意見を伺う機会を設け、施策への反映に努めていく。</p> <p>2 (実績評価) ・目標値を達成した。高校との連携を深め、今後も郷土（伊東）に誇りや愛着が持てるようなまちづくりに努めていく。</p> <p>(次年度修正点) ・高校生アンケートの回答率が前年度に比べて上昇した。今後も高い回答率を維持することができるよう、高校にも積極的に働きかけていくとともに、高校との連携を深め、郷土愛の醸成に努めていく。</p>								

第十一次基本計画 実施計画（目的指向体系表）

政策目標5 活力にあふれ交流でにぎわうまち

- 施策5－1 地域資源の魅力向上
- 施策5－2 新たな観光形態の構築・推進
- 施策5－3 広域連携による誘客の拡充
- 施策5－4 商工業の振興
- 施策5－5 農林業の振興
- 施策5－6 水産業の振興
- 施策5－7 移住定住の促進・関係人口の拡大
- 施策5－8 國際交流の推進・都市交流の促進

担当課		観光課・企画課		施策5－1の全指標達成率								
政策目標	5	活力にあふれ交流でにぎわうまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7				
施策分野	1	地域資源の魅力向上	指標数	18	18	18	18	18				
目指す姿		観光客が地域資源に魅力を感じ来訪する	達成数	11	10	10	4	0				
		市内観光関連事業者が地域資源の魅力を広く発信し、誘客につなげる	達成率	61.1%	55.6%	55.6%	22.2%	0.0%				
1 成果指標 (KPI)				指標数	2	2	2	2				
				達成数	0	0	0	0				
				達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%				
成果指標1	年間来遊客数	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課		
		R1	目標値	700	710	720	725	730	万人	観光課		
		662万人	実績値	461	551	603	625					
		評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成					
目標値の考え方	本市への年間来遊客数については、平成29年度665万人、平成30年度656万人、令和元年度662万人と660万人前後を推移している。本指標については社会情勢に大きく影響を受けるものであるが、第3次観光基本計画の目標値としている令和5年度の720万人達成を通過点とし、本計画の最終年度には730万人となるよう毎年5～10万人の増加を見込んでいく。											
成果指標2	観光客の満足度（伊東温泉観光客実態調査）	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課		
		R1	目標値	85.0	87.5	90.0	92.5	95.0	%	観光課		
		62.3%	実績値	70.1	86.9	86.1	76.8					
		評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成					
目標値の考え方	本市が実施する伊東温泉観光客実態調査で本市全体の印象を満足度と捉え、「非常に良い」「良い」の回答の割合の合計を指標とする。基準値に設定した令和元年度の前年が80%だったことを考慮し、最終年度には95%となるよう毎年2.5%ずつ増加を見込んでいく。											
R6年度		1 (実績評価)	・コロナ禍明けの観光需要の高まりが落ち着きつつある中で前年比3.6%増となった。前年度から引き続き、物価高騰や施設側の従業員不足などの影響があり、令和元年比94%となった。令和6年の日本人国内宿泊旅行延べ人数は、前年比3.5%増、令和元年比94%であり、日本人のみの統計となるが伊東市とほぼ同じ傾向となっている。「令和6年度観光の状況（観光白書）：観光庁より」									
		(次年度修正点)	・宿泊業の生産性向上の支援など受入体制の整備を図るとともに、観光施設のバリアフリー化の促進や、引き続き増加傾向にあるインバウンドに係る施策を推進する。									
		2 (実績評価)	・前昨年度から9.3ポイントと大幅に減少した。「温泉街の雰囲気」「食事」などの7項目の全てで評価が下がっており、全般的に改善を図っていく必要がある。									
		(次年度修正点)	・評価が低い項目においても、「悪い」「非常に悪い」と評価する人は多くなく、「普通」と評価する人が多い傾向にあるので、「普通」を「良い」「非常に良い」へ移行できるよう、観光施設等と連携し、観光コンテンツの周知・磨き上げや施設の改善を図っていく。									

担当課		観光課・生涯学習課		施策5-2の全指標達成率										
政策目標	5	活力にあふれ交流でにぎわうまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7					
施策分野	2	新たな観光形態の構築・推進		指標数	16	16	16	16	16					
目指す姿		観光客が本市を訪れる目的を多種多様な中から選択することができ、滞在型（2泊以上）の観光地として訪れる		達成数	8	7	9	4	0					
				達成率	50.0%	43.8%	56.3%	25.0%	0.0%					
1 成果指標（KPI）				指標数	2	2	2	2	2					
				達成数	2	2	2	1	0					
				達成率	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	0.0%					
成果指標 1	伊豆・伊東観光ガイドのPV数		基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課			
			R1	目標値	2,400,000	2,800,000	3,200,000	4,400,000 (3,600,000)	4,500,000 (4,000,000)	アクセス	観光課			
目標値 の 考え方	2,327,820		実績値	3,361,644	4,082,154	4,317,817	4,895,876							
			アセス	評価	○	達成	○	達成	○	達成	以上			
成果指標 2	伊東での滞在日数（2泊以上の割合） ※伊東温泉観光客実態調査より		基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課			
			R1	目標値	15	17.5	20	29 (22.5)	30 (25)	%	観光課			
目標値 の 考え方	19%		実績値	18	27.3	28.3	27.8							
			評価	○	達成	○	達成	○	達成	×	未達成			
R 6 年 度	本市への滞在日数が2泊以上の割合については、基準値とした令和元年は19%となっているが、平成30年、平成29年と15%に満たない数値となっている。滞在型観光へシフトしたい本市の方向性を図る指標として設定し、コンスタントに15%以上の数値となるよう令和3年度より2.5%ずつの増加を見込み、令和7年度には25%を目指していく。令和7年度の目標値を上回ることができたため、令和6年度以降の目標値を変更する。													
	<p>1（実績評価）・イベント等の最新情報の発信強化や特集記事の更新等により閲覧者の旅行意欲にアプローチすることができた。 また、検索にかかり易いワードの使用など工夫をすることでPV数のみならずセッション数や閲覧時間の向上を図る事ができた。 (次年度修正点)・情報量の拡充を図るとともに、観光客の需要に合致するタイミングでの特集記事の作成・更新を行い、SEO対策を図りつつ情報発信の更なる強化に努める。</p> <p>2（実績評価）・市内周遊促進施策及び南部地区の滞在型リフレッシュリゾートとしての誘客促進施策の効果として連泊の割合は高かったが、上方修正した目標達成には至らなかった。 (次年度修正点)・インバウンド需要も意識した中で、引き続き南部地区の滞在型リフレッシュリゾートとしての情報発信及び受け入れ環境の整備を図る。</p>													

担当課		観光課		施策5-3の全指標達成率								
政策目標	5	活力にあふれ交流でにぎわうまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7			
施策分野	3	広域連携による誘客の拡充		指標数	14	14	14	14	14			
目指す姿		観光客が伊豆半島へ長く滞在し、連携市町を回遊する		達成数	4	6	7	5	0			
				達成率	28.6%	42.9%	50.0%	35.7%	0.0%			
1 成果指標 (KPI)				指標数	2	2	2	2	2			
成果指標 1				達成数	0	0	0	0	0			
				達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
目標値 の 考え方		伊豆半島7市6町の観光交流客数		基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
				R1	目標値 43859475人	30,000,000	44,000,000	46,000,000	48,000,000	50,000,000	人	観光課
					実績値	26,168,435	36,930,551	39,003,247	39,319,280			
					評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成		以上	
目標値 の 考え方		伊豆半島7市6町の外国人宿泊客数		基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
				R1	目標値 646,530人	400,000	630,000	645,000	660,000	675,000	人	観光課
					実績値	24,540	98,943	301,313	649,283			
					評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成		以上	
R 6 年 度		広域連携のインバウンド施策の結果を管理する指標として伊豆半島7市6町の外国人宿泊客数を設定する。令和元年度は約65万人となっているが、令和2年度、令和3年度については新型コロナウイルスの影響により大きく数値が落ちることが予測されるため、それらを考慮して目標値を設定、令和4年度からは毎年1万5,000人をプラスし、令和7年度には67万5,000人を目指していく。										
		1(実績評価)・令和元年度の90%、対前年比101%であり、引き続き回復基調にあるが、コロナ禍前の水準には戻っておらず、増加率が鈍化してきている。										
		(次年度修正点)・増加率が鈍化してきていることから、各市町や団体等が積極的に行っている誘客対策事業について、事業効果が最大限に發揮できるよう、広域での連携・周遊・宣伝等を推進し、誘客対策を実施していく。										
		2(実績評価)・前年比215%と大幅に増加しており、国全体の令和5年から令和6年の増加率(143%)を上回った。目標値は達成できなかったが、目標値に近い人数まで増加した。										
		(次年度修正点)・国全体を上回る増加率となっていることから、引き続き、美しい伊豆創造センターや他自治体等と連携を図りインバウンド施策を進めていく。										

担当課	産業課・企画課	施策5-4の全指標達成率				
政策目標	5 活力にあふれ交流でにぎわうまち	年度	R3	R4	R5	R6
施策分野	4 商工業の振興	指標数	19	19	19	18
目指す姿	商工業者において経営・雇用が安定し、地域経済の発展に貢献している	達成数	9	12	10	8
		達成率	47.4%	63.2%	52.6%	44.4%
						0.0%

成果指標 1	有効求人倍率	指標数	2	2	2	2	2	担当課 産業課	
		達成数	1	2	1	2	0		
		達成率	50.0%	100.0%	50.0%	100.0%	0.0%		
目標値の考え方	R2.3時点 1.22倍	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	担当課 産業課	
		目標値	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00		
		実績値	1.12	1.43	1.46	1.75			
		評価	○達成	○達成	○達成	○達成			
目標値の考え方	R1 12件	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	担当課 産業課	
		目標値	15	15	15	15	15		
		実績値	13	18	14	18			
		評価	×未達成	○達成	×未達成	○達成			
目標値の考え方	R6 年度	伊東市起業支援及び空き店舗対策事業補助金の平成29年度実績16件、平成30年度実績16件、令和元年度12件を参考し、その平均を超える15件以上の起業を維持することを目標とした。							
		1 (実績評価) ・目標値を達成しているが、サービス業や介護関連を中心とした特定の業種においては、多くの求人数に対して、人手が足りていない状況にあることが課題となっている。							
		(次年度修正点) ・リクルートのセミナーや伊東マッチボックス等を活用するとともに、ハローワークやしづおかジョブステーション等の関係団体と連携し、市内人材の掘り起こしや市外から労働力を確保していく必要がある。							
		2 (実績評価) ・目標値を達成しているが、創業時に見込んでいる売上高を大幅に下回る創業者がいることから、創業時の最適なビジネスモデルの選定と創業後のフォローが課題となっている。							
(次年度修正点) ・伊東商工会議所と連携し、創業前・創業後の相談を充実させることで、創業時の計画との相違をなくしていく。									

担当課	産業課・農業委員会事務局	施策5-5の全指標達成率							
政策目標	5 活力にあふれ交流でにぎわうまち	年度	R3	R4	R5	R6			
施策分野	5 農林業の振興	指標数	15	15	15	15			
目指す姿	農林業者において、意欲ある担い手が育成確保され、地域経済の発展に貢献している	達成数	9	6	11	10			
		達成率	60.0%	40.0%	73.3%	66.7%			
						0.0%			
成果指標 1	R1 58人	指標数	2	2	2	2			
		達成数	2	2	2	0			
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%		
目標値の考え方	R6 年度	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	担当課 産業課	
		目標値	62	64	66	68	70		
		実績値	62	66	74	79			
		評価	○達成	○達成	○達成	○達成			
目標値の考え方	R1 69.1ha	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	担当課 産業課	
		目標値	74.4	76.8	79.2	81.6	84.0		
		実績値	80.4	93	100	105			
		評価	○達成	○達成	○達成	○達成			
目標値の考え方	R6 年度	担い手への農地利用集積面積については、令和元年度における農業者1人あたりの利用面積（約1.2ha）を担い手農業者数に乘じて算定							
		1 (実績評価) ・担い手農業者のうち、基本構想水準到達者が増加し、目標値を達成することができた。							
		(次年度修正点) ・認定農業者制度等について、JAふじ伊豆あいら伊豆地区本部など関係機関と連携し引き続き周知を図ることにより、今後育成すべき担い手の増加に向けた取組を行う。							
		2 (実績評価) ・担い手農業者数の増加により、集積面積が増加した。							
(次年度修正点) ・担い手の育成を図るとともに、農業委員や農地利用最適化推進委員などと協力し、引き続き、担い手への農地集積を推進する。									

担当課		産業課	施策5-6の全指標達成率					
政策目標	5	活力にあふれ交流でにぎわうまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	6	水産業の振興	指標数	11	11	11	11	11
目指す姿		水産業者において、水産物の安定的な供給、活用により漁業経営の安定・向上化が図られ、地域経済の発展に貢献している	達成数	2	7	5	4	0
			達成率	18.2%	63.6%	45.5%	36.4%	0.0%
1 成果指標 (KPI)			指標数	1	1	1	1	1
			達成数	0	1	0	0	0
			達成率	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
成果指標	1	水揚数量	基準値	R3	R4	R5	R6	R7
R6 年度		3,636 t	R1	目標値 3,600	3,600	3,600	3,600	3,600
			実績値 2,833	3,808	3,174	3,452		t 以上
目標値の考え方			評価	× 未達成	○ 達成	× 未達成	× 未達成	産業課
1 (実績評価) ・天候不順による操業日数の減少、海況の変化、黒潮大蛇行などの自然的な要因が、水揚げに大きな影響を及ぼしたことから、目標値を達成できなかった。 (次年度修正点) ・いとう漁業協同組合が実施する種苗放流（ヒラメ、アワビ、サザエ）や魚礁設置（アオリイカ）、さらにワカメ等の養殖事業及び伊豆地域栽培漁業推進協議会が取り組む種苗（マダイ）放流事業に対して支援を行い水産資源増大を図っていく。								

担当課		企画課・観光課	施策5-7の全指標達成率					
政策目標	5	活力にあふれ交流でにぎわうまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	7	移住定住の促進・関係人口の拡大	指標数	11	11	11	11	11
目指す姿		移住（希望）者が安心して移住し、定住することができる	達成数	8	10	8	7	0
			達成率	72.7%	90.9%	72.7%	63.6%	0.0%
1 成果指標 (KPI)			指標数	3	3	3	3	3
			達成数	2	3	3	2	0
			達成率	66.7%	100.0%	100.0%	66.7%	0.0%
成果指標	1	移住者数（静岡県調査による。）	基準値	R3	R4	R5	R6	R7
R6 年度		34人	R1	目標値 100	100	100	100	100
			実績値 96	113	127	130		人 以上
目標値の考え方			評価	× 未達成	○ 達成	○ 達成	○ 達成	企画課
目標値の考え方 全国的に地方移住への関心が高まっている背景も踏まえ、本市としても移住促進に積極的に取組み、毎年度100人を目標とした。								
成果指標	2	転入超過数	基準値	R3	R4	R5	R6	R7
R6 年度		94人	R1	目標値 200	200	200	200	200
			実績値 263	274	241	214		人 以上
目標値の考え方			評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	○ 達成	企画課
目標値の考え方 伊東市総合戦略において令和42年度の本市の人口を36,600人程度確保することを目指しており、そのためには毎年度200人の転入超過を目指すことが必要と見込まれるため。								
成果指標	3	移住相談件数	基準値	R3	R4	R5	R6	R7
R6 年度		140件	R1	目標値 160	180	200	470 (220)	500 (240)
			実績値 210	400	444	431		件 以上
目標値の考え方			評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	× 未達成	企画課
目標値の考え方 全国的に地方移住への関心が高まっている背景も踏まえ、本市としても移住促進に積極的に取組み、各年度20件の増加を見込み、240件とした。								
1 (実績評価) ・電話やメールによる移住相談対応はもとより、対面での相談に重きを置き、丁寧な対応を心掛け、各種移住支援制度の周知等に努めた結果、目標値を達成できたものと考える。 (次年度修正点) ・引き続き、対面方式による移住相談に重きを置き、首都圏で開催される移住相談会等へ積極的に参加し、相談の機会を創出していく。								
2 (実績評価) ・移住定住サイトによる情報発信、首都圏で開催される移住相談会への参加、移住相談ツアーの開催などの移住支援施策を実施した結果、目標値を達成できたものと考える。 (次年度修正点) ・引き続き、対面方式による移住相談に重きを置き、首都圏で開催される移住相談会等へ積極的に参加し、相談の機会を創出していく。								
3 (実績評価) ・上方修正した目標値にもう一歩というところで達成はできなかったが、前年度の実績値に近い相談件数を対応できたことは評価できる。 (次年度修正点) ・相談の多くは、移住に伴う支援制度に関する内容であるため、支援制度について正しく理解し、相談者に誤った情報を与えることがないように努めていく必要がある。								

担当課		秘書広報課		施策5-8の全指標達成率																			
政策目標	5	活力にあふれ交流でにぎわうまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7														
施策分野	8	国際交流の推進・都市交流の促進		指標数	11	11	11	11	11														
目指す姿		市民が身近で国際交流が楽しめ、国際理解や都市間交流により相互の地域の理解が育まれている		達成数	2	2	5	4	0														
				達成率	18.2%	18.2%	45.5%	36.4%	0.0%														
1 成果指標（KPI）				指標数	3	3	3	3	3	単位 % 以上	担当課 秘書広報課												
成果指標1		「国際交流機会の充実」に満足している市民の割合（市民満足度調査）		基準値	R3	R4	R5	R6	R7														
		R2 72.3%		目標値	73.0	75.0	76.0	77.0	78.0														
		実績値 70.4		評価	○	未達成	○	未達成	○														
目標値の考え方		「国際交流機会の充実」に満足している市民の割合は、令和元年度実績69.8%、令和2年度実績72.3%を参照し、各年度1%程度の上昇を見込む中で、78.0%以上とした。																					
成果指標2		日本語教室受講者数（延べ人数）		基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位 人 以上	担当課 秘書広報課												
		R1 958人		目標値	1,072	1,129	1,186	1,243	1,300														
		実績値 799		評価	○	未達成	○	未達成	○														
目標値の考え方		外国人人口は、平成28年3月末460人、令和2年3月末658人で、約1.4倍増加していることから、日本語教室受講者数（延べ人数）は、令和元年度実績958人から、外国人人口と同程度の増加を見込む中で、1,300人とした。																					
成果指標3		国内姉妹（友好）都市交流事業の実施回数		基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位 回 以上	担当課 秘書広報課												
		R1 6回		目標値	6	6	6	6	6														
		実績値 2		評価	○	未達成	○	未達成	○														
目標値の考え方		国内姉妹（友好）都市交流事業の実施回数は、引き続き交流を深めていくことを目標とするため、基準値を維持することとした。																					
R6年度	1（実績評価）・令和6年度も継続してイベント等を実施することができたものの、この数年の間に認知度が低下してしまったために、目標値を達成できなかった。 (次年度修正点)・多様な媒体でのイベント等の周知を検討・実施していく。																						
	2（実績評価）・市内企業からの依頼により出張で教室を開催したため、一時的に受講者数が増加し、目標値を達成することができた。 (次年度修正点)・今後も継続して教室を開催するとともに、周知を図っていく。																						
	3（実績評価）・令和6年度も継続して実施することができたため、目標値を達成することができた。 (次年度修正点)・引き続き、交流を継続していく。																						

構想の推進 総合計画を推進するための土台づくり

構想の推進－1 全員参加によるまちづくりの推進

構想の推進－2 市民の信頼に応える行政運営

構想の推進－3 健全かつ持続可能な財政運営

担当課		企画課・秘書広報課・デジタル政策課・庶務課		構想の推進1の全指標達成率							
構想の推進		総合計画を推進するための土台づくり		年度	R3	R4	R5	R6	R7		
施策分野	1	全員参加によるまちづくりの推進	指標数	15	15	15	15	15	15		
目指す姿	1	市民が積極的に様々な活動に参画することができる	達成数	8	7	9	10	0			
		市民が持てる力を最大限に発揮し、想いを形にできる	達成率	53.3%	46.7%	60.0%	66.7%	0.0%			
1 成果指標 (KPI)				指標数	2	2	2	2	2		
				達成数	0	0	0	0	0		
				達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
成果指標 1	「市民活動などの地域活動の推進」に満足している市民の割合（市民満足度調査）			基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	
				R2	目標値	67.0	68.0	69.0	70.0	71.0	%
				65.9%	実績値	59.2	57.9	59.8	61.2		秘書広報課
					評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成		以上
目標値の考え方	「市民活動などの地域活動の推進」に満足している市民の割合について、令和2年度実績65.9%を参照し、各年度1%程度の上昇を見込む中で71.0%とした。										
成果指標 2	「市民の声をうかがう機会の充実」に満足している市民の割合（市民満足度調査）			基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	
				R2	目標値	52.0	53.0	54.0	55.0	56.0	%
				50.7%	実績値	43.0	46.0	46.0	47.3		秘書広報課
					評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成		以上
目標値の考え方	「市民の声をうかがう機会の充実」に満足している市民の割合は、令和2年度実績50.7%を参照し、各年度1%程度の上昇を見込む中で56.0%とした。										
R6年度	1 (実績評価) ・魅力あるまちづくり事業補助金及び伊東市SDGs推進事業補助金など市民が自主的に行う事業への支援を実施した。長期的な事業控えとなつたために目標値を下回ったが、少しずつ満足度は回復している。 (次年度修正点) ・令和7年度は、魅力あるまちづくり事業補助金の防犯灯設置事業において、補助率を増額させたため、引き続き手引きの送付や市HPへの掲載などで周知し、補助金利用の推進を図っていく。										
	2 (実績評価) ・意見箱、市政WEBアンケート、市長への手紙、タウンミーティングなどを通じて広く意見を伺っている。令和6年度のタウンミーティングは、参加者対象者を限定せず、誰でも参加できる形式としたことなどにより、目標値は下回ったものの、満足度は昨年度より上昇した。 (次年度修正点) ・タウンミーティングを「市長と語る会」に名称を変更し、インターネット環境が整っている会場においては、YouTubeでのライブ配信を行うとともに、引き続き、市政WEBアンケートや市長への手紙、意見箱などの広聴制度について周知を図っていく。										

担当課	企画課・職員課・庶務課・デジタル政策課・収納課	構想の推進2の全指標達成率						
構想の推進	総合計画を推進するための土台づくり	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
施策分野	2 市民の信頼に応える行政運営	指標数	21	21	21	21	21	
目指す姿	市民に信頼される	達成数	13	12	14	16	0	
		達成率	61.9%	57.1%	66.7%	76.2%	0.0%	
1 成果指標 (KPI)				指標数	1	1	1	1
				達成数	0	0	0	0
				達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
成果指標 1	「市民に対する市職員の対応」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値 R2 67.3%	R3 69.0	R4 70.0	R5 71.0	R6 72.0	R7 73.0	単位 % 以上 職員課
目標値 の 考え方	令和2年度実績67.3%を参考し、各年度1%程度の上昇を目指し、73.0%とした。							
R 6 年 度	1 (実績評価) ・接遇に関する研修を実施しているが、目標値には達していない。 (次年度修正点) ・接遇に関する研修について、研修前に各部署に事前アンケートを実施し、問題点の洗い出しをするように内容を見直すなど、目標値達成に向けて職員のさらなる接遇技術の向上を図る。							

担当課	財政課・企画課・収納課・課税課・公営競技事務所	構想の推進1の全指標達成率						
構想の推進	総合計画を推進するための土台づくり	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
施策分野	3 健全かつ持続可能な財政運営	指標数	13	13	13	13	13	
目指す姿	健全かつ持続可能な財政運営ができている	達成数	11	9	9	9	0	
		達成率	84.6%	69.2%	69.2%	69.2%	0.0%	
1 成果指標 (KPI)				指標数	2	2	2	2
				達成数	1	1	1	0
				達成率	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%
成果指標 1	全ての会計の地方債残高（臨時財政対策債を除く）	基準値 R1 324億円	R3 320	R4 315	R5 310	R6 305	R7 300	単位 億円 以下 財政課
目標値 の 考え方	R1の324億円を基準に、健全化判断比率の状況等を勘案して、現在は、適正な地方債残高だと判断し、今後、大幅な税収増も見込めないことから、借入を抑制し、将来の負担を軽減するために300億円以下と目標値を設定した。							
成果指標 2	「市の財政の健全な運営」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値 R2 52.1%	R3 55.0	R4 55.0	R5 55.0	R6 55.0	R7 55.0	単位 % 以上 財政課
目標値 の 考え方	R2の52.1%を基準値と考え、市民の過半数が本市の財政状況を憂うことなく、生活（市民サービスを享受）できている状態である現状を維持していくことを目標としたため。							
R 6 年 度	1 (実績評価) ・地方債残高については、目標を達成できた。 一般会計において、令和6年度の借入額が抑えられたことにより地方債残高が減少したものの、今後も大規模事業が見込まれるため、借入の抑制に努める必要がある。 (次年度修正点) ・今後も借入の抑制に努めていく。							
	2 (実績評価) ・令和5年度に比べ5.2ポイント上昇したものの、目標値には届かなかった。							
	(次年度修正点) ・財政健全化法に基づく健全化判断比率は、各指標において適正な水準を維持しており、財政の健全な運営自体はできているため、周知の手法を研究し、市民により分かりやすい財政状況の開示に努めていく。							